

教材作成の変化について

H27年度指定
岡山学芸館高等学校

課題研究力を身に付ける！

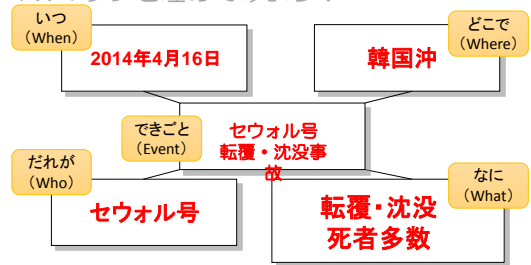
Unit 1 「知る」から「分かる」へ



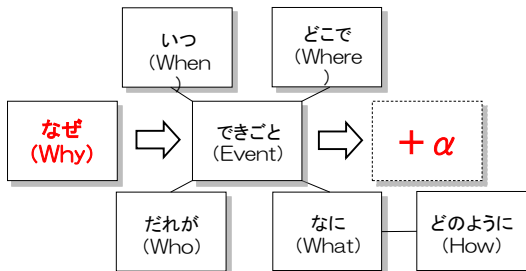
1. これって何のニュース？



4Wマップを埋めてみよう！



5W1H+αマップで「なぜ」を深めよう！



4Wで見る
↓
ただ「知っているだけ」レベル

5W1H+αで見る
↓
きちんと「分かる」レベル



1年目の反省

- ①第1回目はガイダンス、第2回目はアイデンティティの講演会であった。この流れを踏まえずに、内容ががらりと変わり、世界の問題の理解をテーマとしてしまった。結果として、導入部が不十分となった。
- ②3回目の内容としては非常に難しく、生徒の活動が思ったとおりに進まなかった。論理的思考の授業に入るには時期が早すぎた。
- ③SGHを意識し過ぎたあまり、生徒の実態や学びの過程(シラバス)を教員目線でのみ作成してしまった。
- ④「やらなくてはならない」という意識が教員にも強く、常に追われている感覚で教材作成を行ってしまった。
- ⑤50分授業では物理的にアクティブラーニングがしにくい。最低100分必要。